東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

資料-3

＜第一期行動計画の総括（平成15年度～24年度）＞

■結果総括

・流入負荷が削減された。
・干潟造成等による生物種・数の増加などの改善が認められた。

湾内の底層DOは改善されなかった。

■課　題

評価指標として、「底層のDO」のみでは評価できない環境施策や行動が多くあり、多様な評価指標の設定が必要。

東京湾の環境改善は短期間で達成できるものではないため、
長期的視点で粘り強く取組を継続するとともに、
改善に向けた活動や行動の輪を拡げる工夫が必要である。

＜第二期行動計画の総括（平成25年度～34年度）＞

■方　針

多様な施策を評価できる分かりやすい指標を設定

できることをできるところから一つずつ環境改善対策を積み重ねる。

民による生物共生型の護岸構造への改修の協力を働きかける。

多様な主体の連携や協働の推進。

■対　応

・目標要素毎に、小目標、施策、指標を整理

・陸域・海域・モニタリング・アピールポイントにおける取組を引き続き推進

・「江戸前」が豊かに生息する環境を目指すべき東京湾再生の姿の一つとする

・東京湾官民連携フォーラム（仮称）の設立

・環境改善に向けた取組が、民の力により持続的に行える社会システムの構築　等

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

東京湾再生の理念及び意義

現計画では、東京湾再生の理念及び意義を明記していない。次期計画では、多様な主体との連携・協働をより推進するため、「なぜ東京湾再生をする必要があるか」といった理念や意義を明確にし、多くの人々の賛同や協力を得ていく。

東京湾再生の理念（全文）：

〇東京湾の環境悪化は、背後都市に居住または産業経済活動を行う私たちがもたらしたものであり、その影響は、東京湾における漁獲量の減少をはじめ、東京湾で育まれた「江戸前」の食文化や遊びの減退、景観や住環境の悪化、癒しや憩いの空間の喪失、自然の恵みが与える豊かな経験や文化伝承の機会の減少等、私たちの文化や生活等に広く及び、その代償は私たちや次世代が払うことになる。

〇このため、私たちは、子ども達や孫達の世代にも持続的に東京湾からの恩恵を受けられるよう、美しく豊饒な東京湾の再生に向け、東京湾に関わる多様な者の英知を結集し、陸域・海域において一体となって協働による取組の輪を広げていく。

〇また、東京湾の再生に向けた取組の輪を広げるためには、自ら行動することにより、その過程と恵みを楽しみ、享受することができる、好循環となる社会システムを構築するとともに、巨大都市を擁する東京湾として新たな文化や魅力等を発信できる、世界に憧れられる東京湾の再生を目指す。

東京湾再生の意義（概要）：

①豊かな海の保全回復（共生する）
・人及び生物にとって生きやすい湾の実現。
東京湾が持つ水環境の自然回復力の回復。
・海洋中の炭素（ブルーカーボン）固定量を増やし、地球環境問題への貢献を期待。

②持続型社会の実現（食べる）
・日本の水産資源の維持・増大 。
・「江戸前」のブランド化等により、地域産業・雇用の創出及び意欲ある若者が継続して漁業を担える社会の実現。

③東京湾の文化の創生（遊ぶ）
・東京湾固有の文化や遊びを復活・創造
・世界的に魅力ある東京湾の実現、生活向上。
・東京湾の文化を観光資源につなげ、国内外の来訪者を増やし、新たな内需を創出。

④人と海とのつながりの回復（癒す）
・海への理解や関心、憧憬、感謝の心を育て、海から未来を拓く人材を育成。
・人と海、人と人、人と地域とのつながりを取り戻し、ぬくもりのある社会を実現。

⑤新たなイノベーションや科学技術の発展（知財）
・課題解決に向けた新たなイノベーションや「知」の資産につなげる
・海の再生に係る科学技術分野を担う優れた人材を育成・確保。

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

第二期　行動計画の目標について（全体目標）

現計画目標：

快適に水遊びができ、多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する

○東京湾再生に向けてなされてきた様々な提言やシンポジウムにおいて、多くの人々を東京湾再生に巻き込む手法として、「食」につなげる重要性が指摘されてきた。
○「江戸前」の魚介類が豊かに生息する環境を、目指すべき東京湾再生の姿の一つとして共有し、「江戸前」を味わう楽しさや感動の機会を通して、より多くの人々の積極的な参画を一層推進する必要がある。

目標の文言に「江戸前」を追加

第二期計画目標：

快適に水遊びができ、**「江戸前」をはじめ**多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する

※「江戸前」とは、東京湾全体でとれる新鮮な魚介類と定義。

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

東京湾再生に係る目標・施策・評価指標との関係（案）

目　標		施　策	評価指標
【目標要素①】 快適に 水遊びができる	・裸足で遊べる、いつでも安全で気持ちよい海	・浮遊・漂着ゴミ等の回収 ・生活排水対策	・浮遊ゴミ回収量 ・清掃活動等のイベント回数及び市民参加延べ人数 ・水浴場水質判定基準 ・大腸菌群数又は大腸菌数
	・家族連れでも気軽に水遊びを楽しめる海	・関連施設の整備	・水遊びの関連施設数
【目標要素②】 「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する	・多様な生物が生息し、豊富な「江戸前」の恵みが得られる海	・干潟・浅場・藻場等の保全・再生・創造 ・汚泥浚渫 ・覆砂 ・深掘跡の埋め戻し ・生物共生型港湾構造物の整備・改修	・藻場・干潟・浅場の造成面積 ・下層DO （モニタリングポストなどでの貧酸素発生頻度や、空間分布など） ・汚泥浚渫の土量 ・覆砂面積 ・深掘跡の埋め戻し量 ・生物共生型港湾構造物の整備数
	・「江戸前」の味や文化を世界に発信できる海	・漁場環境の改善	・漁獲量・種 ・ブランド化につながるような、他の生産地との差別化を評価できる指標（江戸前ということで高評価を得る魚介類等）
		・環境教育・イベント等	・イベント開催回数 ・イベント参加者数

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

目　標		施　策	評価指標
【目標要素③】 親しみやすい	・海辺に行きやすく、身近で安心できる海	・親水公園等の整備 ・水辺の開放 ・海辺までのアクセスの整備 ・生活排水対策	・親水公園・海釣り公園等の整備箇所数 ・水辺の開放箇所数 ・アクセスの整備箇所数 ・大腸菌群数又は大腸菌数
	・子供からお年寄りまで、いつでも楽しめ、驚きや感動がある海	・イベント開催等	・利用者数 ・海釣り公園での釣果や釣り情報、その他生物観察イベントなどでの生物生息情報 ・利用者アンケートなどによる評価
【目標要素④】 美しい	・赤潮や青潮が発生しない海	・生活排水対策 ・河川浄化対策 ・森林保全活動	・汚濁負荷量COD、T-N、T-P ・青潮発生頻度 ・赤潮発生頻度 ・臭気 ・透明度 （測定値そのものと、その原因についての解析）
	・背後の都市景観と調和した美しい海		
【目標要素⑤】 首都圏にふさわしい	・最先端の科学的知見が充実した賢い海	・モニタリング ・ブルーカーボン ・東京湾再生官民連携フォーラム（仮称）による活動 ・環境教育・イベント等	・企業による東京湾でのイベント数 ・シンポジウム、フォーラム等への総参加者数、参加企業数 ・新聞・広報誌・釣り雑誌などへの情報掲載数
	・東京湾岸で活動する様々な人や企業が、楽しみながら環境再生に取り組んでいる海		

注）評価指標及び当該指標に対する数値目標等ついては、東京湾再生官民連携フォーラム（仮称）等の議論等を踏まえ決定する

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

行動計画の体系

目　標

全体目標
東京湾再生の目標

本文記載

快適に水遊びができ

「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する

親しみやすく

美しい海を取り戻し

首都圏にふさわしい東京湾を再生する

目標要素
目標を構成する要素

本文記載

快適に水遊びができる

「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する

親しみやすい

美しい

首都圏にふさわしい

小目標
目標の具体的なイメージ

本文記載

裸足で遊べる、いつでも安全で気持ちよい海

家族連れでも・・

多様な生物が生息し、豊富な「江戸前」の恵みが得られる海

江戸前の味・・

施　策

施策
目標を達成するために実施する取組

本文記載＋別紙(施策の抜粋)

生活排水対策

・・・

干潟・浅場・藻場等の保全・再生・創出

汚泥浚渫

・・・・

別表(個別プロジェクト)
計画で掲げた施策についての具体的なプロジェクト

個別プロジェクト	プロジェクトの目標
汚濁負荷量の総量削減	COD139t・・・
汚水処理施設の整備	
高度処理	62%
⋮	

評価指標

評価指標
水環境の改善状況や施策の進捗状況を把握評価するための指標

別紙

水浴場水質判定基準

大腸菌郡数又は大腸菌数

干潟・浅場・藻場等の造成面積

下層のDO

※評価指標の種類

1）複数の施策による効果が相乗的に発揮される指標
（例）下層DO

2）施策と指標が一対一に 対応する指標
（例）干潟・浅場・藻場等の造成面積

3）施策の進捗度合いを評価する指標
（例）浮遊ゴミ回収量

数値目標
評価指標の定量的な目標

今後検討

○○

○個/○ml以下

○○ha

○○mg/l

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

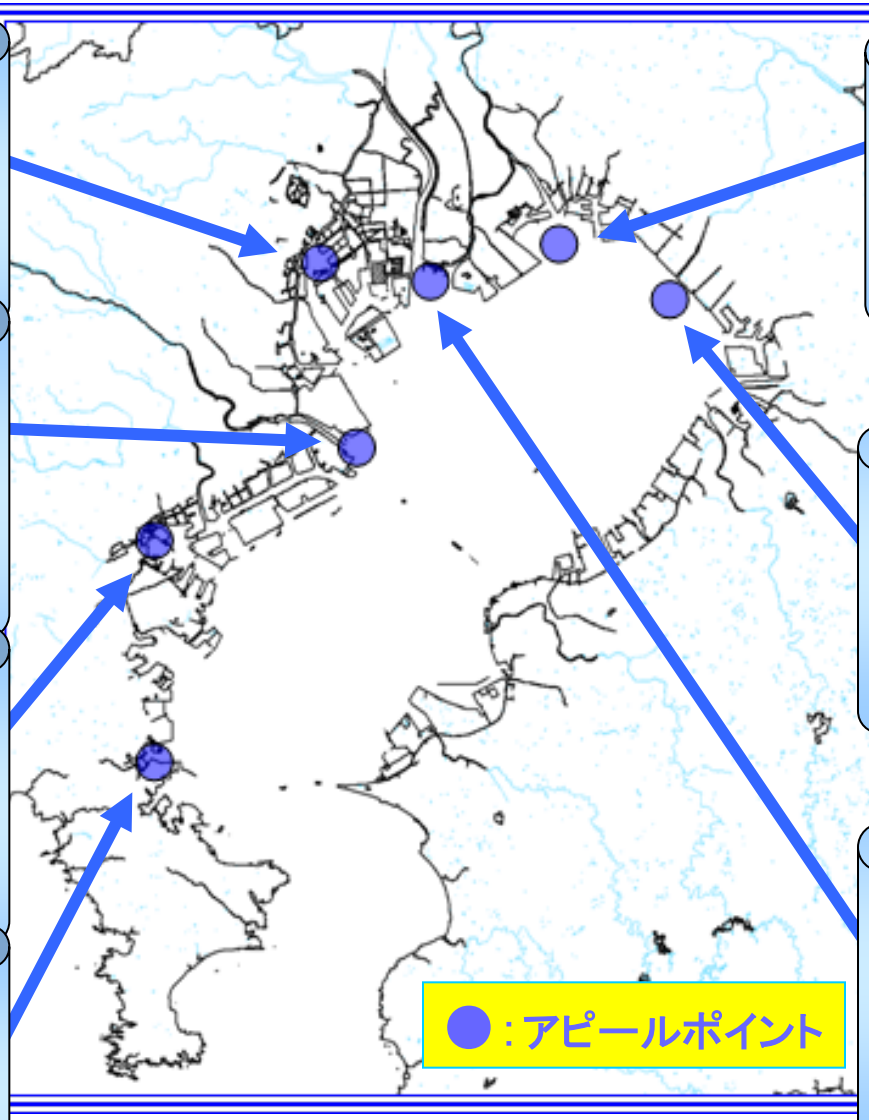
第二期　行動計画の目標について（アピールポイントの目標）

お台場周辺
・目標
アサリ、カガミガイ、シオフキの確認
七都県市底質環境評価区分Ⅲ以上
・施策
三河島水再生センターの段階的高度処理施設整備
芝浦水再生センターに貯留施設
増設と高速ろ過施設導入海浜の清掃活動

多摩川河口周辺
・目標
七都県市底質環境評価区分Ⅱ以上
・施策
多摩川河口干潟生物調査
多摩川等に干潟等の自然再生
合流式下水道の改善
下水道未接続排水の適正処理の推進
等々力・入江崎水処理センターの高度処理推進

みなとみらい２１周辺
・目標
クサフグ、ウミタナゴ、ワカメの確認
七都県市底質環境評価区分Ⅱ以上
・施策
清掃船による浮遊ゴミ回収
ＮＰＯ等による海底ゴミの回収
合流式下水道の改善
神奈川水再生センターの高度処理導入

海の公園・八景島周辺
・目標
シロギス、オサガニ、アマモの確認
七都県市底質環境評価区分Ⅲ以上
・施策
清掃船による浮遊ゴミ回収
合流式下水道の改善
金沢水再生センターの高度処理導入



三番瀬付近
・目標
三番瀬専門家会議において検討中
・施策
情報発信・広報活動
下水道幹線管渠整備、処理場施設整備
江戸川の浄化対策、湿地等の自然再生
ＮＰＯの活動を後援など

いなげの浜～幕張の浜付近
・目標
クサフグ・ハゼ・アサリ等の確認
七都県市底質環境評価区分Ⅱ以上
・施策
合流式下水道改善、南部・中央浄化センターへ高度処理導入
合併処理浄化槽へ転換促進
高度処理型浄化槽の設置推進

葛西海浜公園周辺
・目標
アサリ・バカガイ・コアジサシ等の確認
七都県市底質環境評価区分Ⅲ以上
・施策
綾瀬川の浄化対策
荒川において干潟等の自然再生
荒川、新河岸川、中川水循環センター等の高度処理導入

アピールポイントの考え方
施策による改善の効果について、身近に市民が体感・実感できるような場所であり、施策の効果が端的に評価できる場所でもある。

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

東京湾再生への取組の考え方

○改善対策の積み上げ及びネットワーク化による東京湾再生
東京湾再生にあたっては、部分的かつ小規模な環境改善対策であっても、多数の場所で継続的に実施することが重要であることから、できることをできるところから一つずつ積み重ねる。

○順応的管理手法による東京湾再生
東京湾再生にあたっては、1960年以前の東京湾の自然の仕組みを参考に、地誌（史）的に東京湾が本来持っている自然や海域の特性を踏まえ、生態系の自律的な改善の手助けとなり、水域全体の改善につながる方策を検討する。また、自然の不確実性を踏まえ、計画立案・試行・検証・計画修正・再試行の繰り返しを行うことにより、よりよい環境を再生・創出する。

○国民・市民参加型の東京湾再生
東京湾再生にあたっては、東京湾流域全体における多種多様な主体が、東京湾の将来の絵姿と実現方策を共有し、連携・協働して取り組む。

○社会的企業活動の活性化による東京湾再生
東京湾再生にあたっては、様々な課題を解決する新しいビジネスモデルを創出する企業やNPOを育成・定着させるとともに、NPO活動等が持続的に継続できる仕組みの形成や人材育成等を通し、環境改善に向けた取組が、民の力により持続的に行える社会システムを構築する。

○多機能性や冗長性の確保された東京湾再生
東京湾再生にあたっては、防災と環境の両立等の多機能性や非常時と日常時の利用を変えるといった冗長性等を確保できるよう、あらゆる面で環境配慮に取り組む。

東京湾再生官民連携フォーラム(仮)について

東京湾再生推進会議

推進会議

■メンバー
行政（国・自治体）

・目標の設定
・行動計画の策定（とりまとめ）

幹事会

■メンバー
行政（国・自治体）

・全体の進捗について確認・検証
・先進的な取組の検討

陸域分科会
- 陸域担当者会議

海域分科会
- 海域担当者会議

モニタリング分科会
- モニタリング研究会

・東京湾水質一斉調査

■分科会メンバー　行政（国・自治体）等

・各域の進捗確認・検証
・先進的な取組の検討

提言

連携

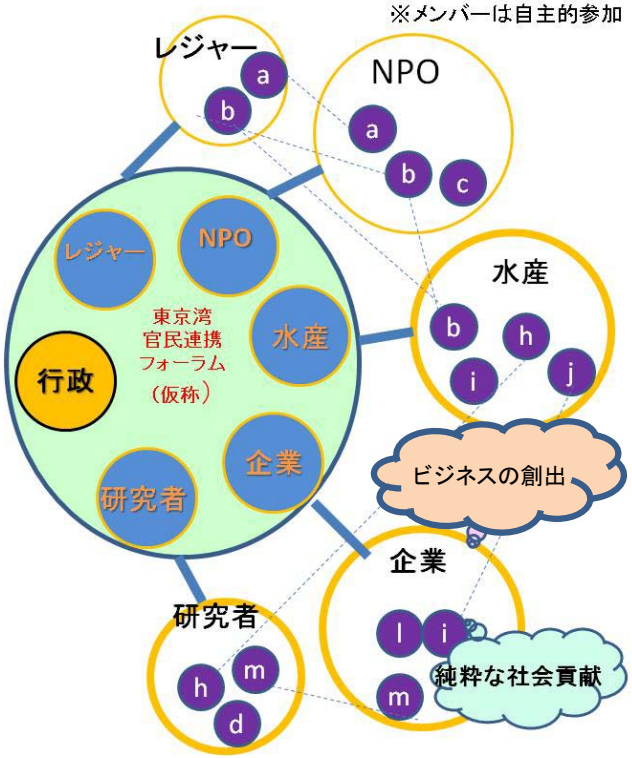
東京湾再生官民連携フォーラム（仮称）

フォーラム

■メンバー
多様な主体（ただし登録制）

・東京湾再生の取組に対する提言（年1回）

PT（仮称）

■メンバー
多様な主体（フォーラム構成員及び自薦他薦で構成）

・フォーラムにおける検討課題を検討